

指導資料

鹿児島県総合教育センター

教育資料 第44号

- 小・中学校対象 -

平成13年11月発行

学校図書館における情報活用能力の育成の在り方

情報化が進展する中で、これからの学校教育においては、あふれる情報の中から児童生徒自ら必要な情報を収集、選択、活用する能力の育成が強く求められている。

学校図書館には様々な資料・情報が整備されている。これからは学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実し、情報活用能力の育成を図ることが重要である。

そこで学校図書館における情報活用能力の育成の在り方について述べる。

1 情報活用能力について

情報教育について、平成10年8月に、情報教育に関する推進等に関する調査協力者会議から最終報告が出された。その中で情報教育を「情報活用能力を育成する教育」と定義し、目標を次のように示している。

情報活用の実践力の育成
情報の科学的な理解の促進
情報社会に参画する態度の育成

「情報活用の実践力」とは、各教科や総合的な学習の時間における問題解決的な学

習の中で、図書資料をはじめとする様々な情報を生かして課題を追究していく過程ではなくまれる能力のことである。一人一人の子どもたちがこの力を身に付けていけるよう、学校図書館の学習情報センターとしての機能を高めるための環境整備や指導上の工夫が必要である。

「情報の科学的な理解」とは、例えばコンピュータなどの情報手段の特性について理解したり、情報処理の方法や身近な情報技術の仕組みを学んだり、自らの情報活用を評価・改善したりするための基礎的な理論や方法に関する理解のことである。

「情報社会に参画する態度」とは、社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度のことである。

例えば、学習の成果等を他の学校等に発信するときは、情報を受け取る相手の立場や気持ちに配慮したり、図書資料や様々な学習ソフトを取り扱う場合、著作権に留意したりするよう指導する必要がある。

情報活用能力の育成は、小・中・高等学校

を通して、体系的・系統的な情報教育の中で進められていく。その中で、小学校段階では、総合的な学習の時間を中心に「情報活用の実践力」を養うことが望まれる。

また、中学校段階では、小学校における情報教育を踏まえ、技術・家庭科の「情報とコンピュータ」及び社会科の「公民的分野」を中心として、「情報活用の実践力」とともに、「情報の科学的理解」と「情報社会に参画する態度」を育成する必要がある。

2 学校図書館を活用した情報活用能力の育成

(1) 学校図書館で育てる情報活用能力

学校図書館で育てる情報活用能力とは子どもたちが学習課題を追究していくに当たり、学校図書館にある様々な資料の中から、目次、索引、目録等を有効に利用して自分の求める情報を見付けたり、コンピュータ等の情報機器を活用し情報を収集したりする、いわゆる情報活用の実践力の育成が中心となる。

(2) 情報活用能力を育成する具体的な手だて

ア 学習情報センター機能の充実

横断的な学習や調べ検証する学習の中で情報活用能力を更に高めていくため、子どもたちのニーズに応じた学習資料や様々な情報ソフト及び情報手段を、発達段階や身に付けている情報活用能力に応じて用意する。

資料の分類や配架は十進分類法にこだわることなく、教科等の内容に関する視点、子どもたちの興味・関心に関

する面なども重視していく。件名目録の作成においては各教科等の単元と直結させるなどの工夫をする。

例えば、6年生社会の歴史の学習の中で、織田信長を探すために、単元の学習のキーワードである「戦国時代」を使った言葉を件名目録として子どもたち自身に考えさせるなどして、子どもたちの関心や利用度を高める。

イ 図書館利用の指導の充実

これまでどちらかというところの紹介程度で進めていた利用指導を、自主的・主体的学習の促進と子どもたちの情報活用能力の育成の視点から見直す。利用の仕方と資料の種類、資料の特性と利用法、必要な情報・資料の検索方法、情報の記録方法やまとめ方等の指導を大切にす。

また、レファレンス・サービスや読書相談体制の強化にも努める。

ウ 学校図書館の計画的な利用

教科や総合的な学習の時間の年間指導計画や単元構想の中に学校図書館の活用を位置付ける。その際、単元の目標や内容との関連から、育成すべき情報活用能力を明らかにしておく。

例えば国語の学習で、4年生では国語辞典・漢和辞典を用いて必要な情報を集めることができるなどである。

エ 地域の教材、人材の活用

地域の歴史や文化財に関する資料、地域にゆかりのある人々の伝記、ゲストティーチャーとして活用する人材をデータベースとして構築しておく。

そして、求める図書やこれらの資料・情

報を素早く的確に探せるよう、目次や索引
国語辞典、百科事典などの五十音順索引、
キーワードを基にカード方式やパソコンに
よる検索システムなどを活用する能力を高
める。

オ 図書委員会活動の充実

教師の支援の下に図書委員を中心として
新刊書、推薦図書等の紹介、学習活動の成
果等を掲載した学校図書館だよりを発行さ
せる。その過程において情報発信力（情報
選択・活用能力）を育てる。

カ 地域に開かれた図書館づくり

地域のボランティア活動への参加、学習
の中での取材活動等を通して地域の人々、
自然、歴史、伝統文化への価値などに気付
かせる。さらに、地域文化と学校図書館と
のつながりを深める。

例えば、敬老会で地域の昔話を劇化した
り、ブックトークを披露したりして、学校
図書館を子どもたちの地域での文化活動に
リンクしていく。

キ データベースの構築

コンピュータによる図書資料名等のデー
タベース化を進める。各学校間及び公立図
書館とのネットワーク化を図り、データを
相互に検索したり、必要な図書資料を相互
貸借するシステムを構築する。

(写真1)

3 学校における具体的実践

次は、総合的な学習の時間の単元構想に
学校図書館の活用を位置付けて、情報活用
能力の育成を図った指導例である。

(1) 単元名

「始良町の自然を守ろう～われら環境
ボランティア～」

(2) 目標

ふるさとの別府川をテーマに、自分な
りの観点から課題を追究する中で環境問
題について課題意識を高め、自分なりの
解決策を見付けたり、実践活動に結び付
けることができる。

(3) 学年：5年生（4学級137名）

(4) 情報活用能力を育成するための工夫

ア 導入においてはオリエンテーション
の場で、子どもたちの興味・関心や問
題意識を高めるためブックトークを生
かしている。

イ 課題設定の場では、学校図書館にあ
るパンフレットや新聞等の図書以外の
資料も生かしながら、自分なりの観点
から課題を設定している。

ウ 課題追究の場では、インターネット
やメール等の情報メディアも活用し、
情報処理等に生かしている。

エ 学習の成果をポートフォリオを利用
してまとめたり、情報メディアを使っ
て発表している。

オ 単元を通しての課題追究の過程にお
いて、情報の収集・判断・処理・創造
表現・発信・伝達など、いわゆる情報
活用の実践力を中心に情報活用能力の
育成を図っている。

【始良町の自然を守ろう～われら環境ボランティア】

過程 (時間)	主な学習活動	情報活用の実 践力	教師の支援と学校図書館の活用 (中は学校図書館の活用)
ふ れ る (5)	1 オリエンテーション ・ 別府川に行き, 川の掃除をする。 ・ ゲストティーチャー (昔から別府川沿いに住んでいる人) の話を聞く。 ・ 昔の別府川について取材活動をする。 (インタビュー・手紙) ・ 先生によるブックトークを聞く。	収集	・ 別府川での直接体験活動, 人材活用, 地域の人々への取材活動等によって得た情報により興味・関心を触発する。 ・ ブックトークにより川に対する知識を広げ問題点や疑問点に気付かせる。 (富山和子著『川は生きている』)
つ か む た て る (5)	2 課題を設定する。 ・ 課題ごとのグループに分かれる。 ・ どのような方法で調べるかグループで計画を話し合う。 ・ 課題を追究するために新たに資料収集をしたり, それらの中から必要な資料を選択していく。	収集 判断	・ 子ども一人一人の思いや見つけた問題点・疑問点をもとに調べたいことを焦点化し, 子ども自身の課題としての意識を高める。 ・ 図書, パンフレット, 新聞, 前年度の児童が作成した発表資料等も参考にし, 必要な資料を選択させていく。
し ら べ る (5)	3 課題グループで調べる。 <方法例> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川の調査活動 ・ 学校図書館や町立図書館の利用 ・ 民俗資料館の利用 ・ 地域の人への取材 ・ 関係機関や他の学校との交流活動 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; text-align: center;"> (写真2) </div>	収集 判断 処理 創造	・ 学校図書館の様々な情報メディアの活用を工夫し課題追究をさせていく。 ・ 図書館にある関係書籍やその他の資料を準備しておく。資料の見つけ方や目的に合わせた選択を助言する。 ・ インターネットでの検索やメール利用の方法を事前に指導しておく。 ・ 情報ネットワークを利用した交流の場 (建設省河川事務所等) を設定する。 (情報活用の実践力)
ま と め る (5)	4 調べたことや組んだことをポートフォリオを利用してまとめる。 ・ 「ポートフォリオ作り方ガイド」を活用しながら, 活動してきたことを整理し, まとめる。	判断 処理 創造 表現	・ 学習のプロセスがよく分かるファイルになるよう図書資料等の要約や記録のまとめ方を指導したり, 情報の見直し方について助言する。
生 か す (5)	5 調べたことを発する。 ・ TPや図表等を作成したりコンピュータを使って文章やレイアウトを工夫する —発表例— <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙芝居やペープサートの作成 ・ 児童一人一人の個別新聞の発行 ・ 「ふるさと別府川マップ」の作成 </div>	表現 発信 伝達	・ 発表に向けて様々な情報メディアの特性や目的に応じた活用方法を理解させる。(情報の科学的理解) ・ 発表では相手の立場や気持ちを考えた情報発信の大切さに気付かせる。 (情報社会へ参画する態度)
ふ り え か る (5)	6 学習してきたことを振り返る。		・ 活動全体を振り返ることができるような評価カードを準備する。 ・ 環境に関する図書を紹介したりして, 更に広い視点で環境問題を見ていこうとする態度を高める。

(始良町立建昌小学校 米村圭史教諭の実践を基に作成)

〔引用・参考文献〕

- ・ 熱海則夫・長倉美恵子編『子どもが生きる学校図書館』平成12年 ぎょうせい
- ・ 赤堀侃司編『情報活用能力をはぐくむ』平成12年 ぎょうせい
- ・ 増田信一編著『学び方を養う学校図書館』平成12年 学芸図書

(教育資料室)